

7. メキシコ公的医療機関における医療 IT 研修

富士フィルム株式会社

【現地の状況やニーズなどの背景情報】

メキシコは放射線医が約 1,000 名と極めて少なく（日本：放射線医 6,500 名）、その人員で日本と同等の同人口 1.3 億人をカバーする必要があるが、デジタル化が遅れており、診断の効率化が不十分で、増大する患者に答えきれていない。

【活動内容】

富士フィルム株式会社は、医療現場の様々なニーズに応える幅広い製品・サービスを開発・提供してきており、さらなる診断の効率化と医療の質の向上に寄与するソリューションを提案し、積極的にグローバル展開を推進してきている。

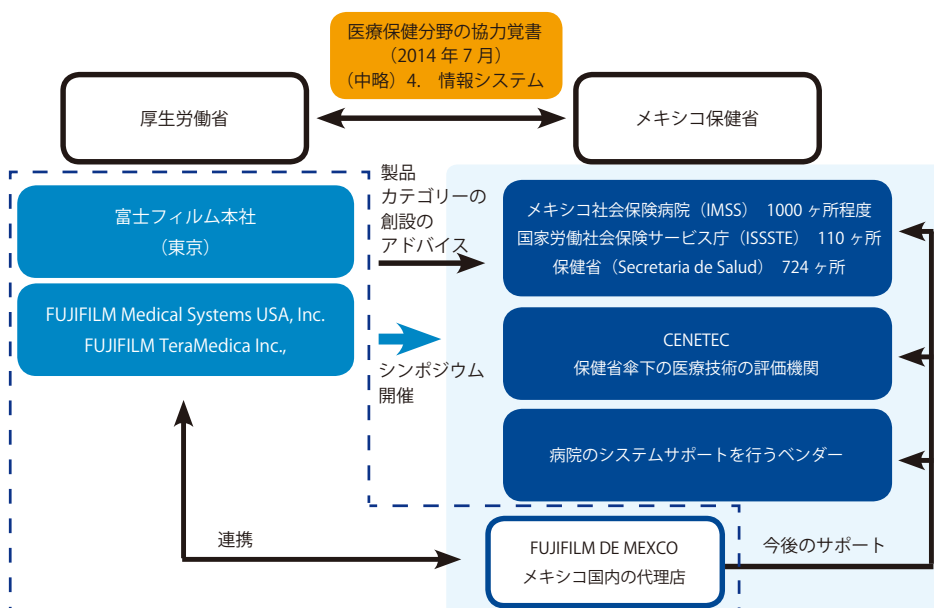
IMSS（メキシコ社会保険病院）をはじめとするメキシコの公的病院は拠点数も多く、地域・機関連携によって実現できるメリットは大きい。それに貢献するシステムとして医療画像システムの PACS や各臨床部門システムに管理されている多様な診療情報を一括して管理できるアーカイブシステム「Vender Neutral Archive（以下 VNA）」に注目。IMSS/ISSSTE/Secretaria de Salud 対し、日本・世界の最先端医療 IT の現状を紹介し、実際の VNA システムを体験してもらうデモンストレーションを、対象者を放射線医のほか放射線技師、病院監督者・情報システム担当者などに広げて、シンポジウムという形で開催した。

【期待される成果や波及効果等】

受講者は、VNA を始めとした医療 IT システムに対して理解を深め、活用の可能性に期待を持つことができた。導入に向けて具体的なステップに入りたい旨の表明があり、VNA を CENETEC の製品カテゴリーとして登録する準備にはいることとなった。

日刊全国紙である Deforma、ビジネス月刊誌の Expansion から取材を受け、記事掲載されることとなった。シンポジウムの参加者はメキシコシティ近郊に限られたが、全国的に広く情報拡散し、問い合わせなどに繋がる波及効果を発揮した。

CENETEC の製品カテゴリー創設に向けて、スペック等のヒアリングや情報提供に協力していくこととなった。



<研修実施結果>

2016年1月 専門家派遣
(8名派遣、163名参加)

- ・医療画像の効率管理 (VNA 導入の利点について) に関するシンポジウム開催

事業の成果

- ・ 受講者は、VNAを始めとした医療ITシステムの理解を深め、①診断の効率化と医療の質の向上、②病院経営のコスト削減、③人々の健康の維持増進に貢献しそうだとの期待を持つことができた。
- ・ IMSSから導入に向けて具体的なステップに入りたい旨の表明があった。同時にVNAをCENETECの製品カテゴリーとして登録する準備にはいることとなった。
- ・ 日刊全国紙Deforma、ビジネス月刊誌Expansionなどから取材を受けた。Web媒体にはすでに速報が掲載され、全国的な情報拡散と問い合わせなどに繋がる可能性などの波及効果を発揮した。



上：用意した座席はほぼ満員になった会場の様子



上：質疑応答の時には熱心なQ&Aが続いた



左：ビジネス月刊誌Expansionのwebサイト



右：IT系情報メディア大手、CIOのwebサイト

今後の課題

- ・ IMSSからは試験導入に向けて具体的なステップに入りたい旨の表明あり。今後、複数の施設で実証導入を目指す。
- ・ CENETECからは製品カテゴリー創設したい旨の表明あり。具体的にスペック等のヒアリングや、医療ITについての情報提供に協力していくこととなった。
- ・ 医療関係者の実際の活用を行っていく中で、性能を十分に引き出すための医療ITに関する意識啓蒙やハンズ・オン・トレーニングなど、継続したサポートが必要。

